

満洲語の“-mbi-”と“-me bi-”

松岡雄太

关于满语的“-mbi-”和“-me bi-”

MATSUOKA Yuta

要約

这篇论文主要提出了以下观点。第一，满语里存在体范畴。第二，论述了继续体“-me bi-”和“-mbi-”的不同点。17世纪出现的满语文献里已经有了[“-me bi-” > “-mbi-”]这一简缩，特别是在后接副动词和形动词的时候。也就是说，在从属节的位置上，只用了“-me bi-”。实际上，这也意味着，在从属节的位置上，简缩形“-mbi-”和非简缩形“-me bi-”是没有区别的。另一方面，在主节的位置上，特别是陈述式的时候，简缩形和非简缩形都有出现。陈述式的大部分都以简缩形“-mbi-”出现，而只有一部分的非简缩形可以用“bi”的语义残留来解释。这反映了满语里的体形式的语法化的过程。

1. はじめに⁽¹⁾

従来、満洲語文語（以下、満洲語）における動詞の文法範疇については、統一的な見解がなかったといつてよい。愛新覚羅烏拉熙春（1983）、愛新覚羅瀛生（2004）は、まず、動詞の文法範疇を「式（モード）」と「態（ヴォイス）」に二分する。次に、「式」を「陳述式」、「祈使式」、「条件式」に三分し、さらに「陳述式」を「現在時」、「将来時」、「過去時」に三分する。一方で、李永海・刘景宪・屈六生（1986）、关嘉禄・佟永功（2002）は、動詞の文法範疇を「式」、「態」、「時」に三分する。後者の「時（テンス）」は、事実上、前者の「陳述式」を別途に取りだしたものと見える。このように、「時」を文法範疇として取り出すかどうかは意見が分かれるが、いずれにせよ、「時」（陳述式）として記述される形式は、概ね、以下の通りである（愛新覚羅瀛生 2004: 92-99）。

(1) 現在時

词綴	语意表示	语法作用
-mbi	现在进行和惯常	终止
-ra, -re, -ro	现在进行	终止、中止
-me bi	现在进行	终止
-me bimbi	现在进行	终止、中止
-mahabi	现在进行	终止、连体
-me ilihabi	现在进行	终止
-habi, -hebi, -hobi	已完成二影响现在	终止
-fi bi	已完成二影响现在	终止
-hai bi, -hei bi, -hoi bi	惯常	终止
-habihebi, -hebihebi, -hobihebi	已开始开持续至今	终止

(2) 将来時

词綴	语意表示	语法作用
-mbi	不突出强调“将来”	终止
-ra, -re, -ro	较强调“将来”	终止、中止

(3) 過去時

词綴	语意表示	语法作用
-ha, -he, -ho(-ka, -ke, -ko)	表示行动已发生、已完成	终止、(中止)、连体
-mbihe(-me bihe)	过去进行和过去惯常	终止
-mbihebi	过去完成已经存在	终止
-habihe, -hebihe, -hobihe	过去某时内持续进行	终止

(1)~(3)の記述に対して、松岡(2006)では、山本(1955)と田窪(1986)の記述に基づいて、「テンス(tense)」と「アスペクト(aspect)」を分ける必要性を論じたことがある。満洲語のテンスは過去と非過去の二項対立をなし、アスペクトは、一次的には(4)に示す“φ”と“-me bi-”と“-ha bi-”の三項対立のアスペクト体系、或いは、二次的には不完成相=継続相を“-me bi-”、“-fi bi-”、“-hai bi-”の三つに細分化した(5)のアスペクト体系の可能性があると指摘した⁽²⁾⁽³⁾。

(4) 満洲語の基本アスペクト・テンス体系 1

相 時制	完成相 (perfective)	不完成相 (imperfective)	パーフェクト相 (perfect)
非過去 (non-past)	-mbi	-me bi [-mbi]	-habi
		-me bimbi	?-ha bimbi
過去 (past)	-ha	-me bihe [-mbihe]	-ha bihe
	-habi	-me bihebi [-mbihebi]	-ha bihebi

(5) 満洲語の基本アスペクト・テンス体系 2

相 時制	非継続相 (non-durative)	継続相 (durative)			パーフェクト相 (perfect)
非過去 (non-past)	-mbi	-me bi [-mbi]	-fi bi	-hai bi	-habi
		-me bimbi	-fi bimbi	-hai bimbi	?-ha bimbi
過去 (past)	-ha	-me bihe [-mbihe]	-fi bihe	-hai bihe	-ha bihe
	-habi	-me bihebi [-mbihebi]	-fi bihebi	?-hai bihebi	-ha bihebi

本論文では、満洲語に(4)または(5)のようなアスペクト範疇があると仮定し、松岡(2006)で扱うことができなかった不完成相(継続相)“-me bi-”とその縮約形について考察する。

2. 縮約形“-mbi-”

2.1. “-mbi-”の出現環境

不完成相(継続相)の“-me bi-”には縮約形が存在する。縮約形は“-me bi-”にのみ存在し、“-fi bi-”、“-hai bi-”、“-ha bi-”には存在しない。“-me bi-”の縮約形の出現環境は以下の通りである。

- (6) a. -me bi > -mbi
 b. -me bihe > -mbihe
 c. -me bihebi > -mbihebi
 d. -me bime > -mbime

これらの縮約形は、歴史的な言語変化の結果、すなわち、“-me bi-”の“e”が脱落して“-mbi-”になったものとみて、ほぼ間違いないだろう。本論文は、紙面の関係上、主節の位置に表れる現在時制の(6a)のみを研究対象にする。以下の(7)に示す主節の過去時制の例や、従属節の例については後稿にゆずる。

- (7) g'an dze -i tukiyehe gebu de žun. hūi ji san in -i ba -i niyalma. dade usin weileme bihebi. bithe de ambula amuran. damu boo yadahūn ofi, ini beye be gūwa de turifi weilembime bithe baifi hūlambi. <闕澤の字は徳潤。出身は会稽山陰。元々田を耕していました。書を大変好みます。ただ家が貧しく、身を他人に貸して働き、書を求めて読みます。> [三譯總解: 卷六:1a]

2.2. “-mbi”の意味

“-mbi”はまず、出来事をひとまとまりのものとして捉える「完成相」或いは「非継続相」のアスペクト形式である。(8)～(10)はその一例である。概ね、日本語の「ル」形に相当する意味で用いられている。“-mbi”はまた、(11),(12)のように、「習慣」の意味でも用いられる。

- (8) ememu urse uttu gisurembi. ememu urse geli tuttu gisurembi. gūnici gemu tašan. ainahai yargiyan ni. <ある者はこう言う。またある者はそう言う。思うに全部嘘だ。どうして本当だろうか?> [清文啓蒙: 卷二:20b]
- (9) sure beile hendume yehei cooha be enenggi jimbi, cimari jimbi seme donjiha. te isinjiha nikai. <スレ・ベイレが言うには「イエへの兵が「今日来る、明日来る」と聞いた。今やってきたのか?> [満洲実録: 卷二:147]
- (10) age si atanggi genembi. geneki seci uthai genembi seme hendu. generakū oci uthai generakū seme hendu. bi damu sini anggai canggi genembi sehebi donjire dabala. <あなたはいつ行きますか? 行くなら行くと言ってください。行かないなら行かないと言ってください。私はただあなたのいつ行くといったのに従うだけです。> [清文啓蒙: 卷二:2b]
- (11) bi damu emu hūntahan omire jakade uthai soktombikai. <私はたった一杯飲んだだけで酔うのだ。> [清文啓蒙: 卷二:43b]

- (12) ere ucuri suweni sefu kemuni jimbio akūn. jimbi. emu inenggi de urunakū emu mudan jimbi. tuttu oci inenggidari jifi gemu suwende ai jergi gisun tacibumbi. <この頃あなた方の先生はいつも来ますか？来ます。一日に必ず一回は来ます。それなら毎日来て、あなた方にどんなことを教えますか？> [清文啓蒙：卷二：25b]

一方で、“-mbi”は“-me bi”の縮約形、つまり「不完成相（継続相）」のアスペクト形式でもある。この場合、継続相の“-me bi”と同じ意味、すなわち、「現在進行」の意味で用いられている。

- (13) ume elhesšare [sic. elhešere]. sambi. <ぐずぐずするな。分かっているよ。> [清書指南：卷二：8b]
 (14) donjici, si te manju bithe tacimbi sembi. <聞くところによれば、君は今満洲文を教えているらしいね。> [一百条：卷一：1a]
 (15) te absi genembi, bi gemun hecen -i baru genembi. <今どこに行くところだい？私は皇城に向かって行くところだ。> [清語老乞大：卷一：1a]
 (16) tere fonde manju gurun -i amba hecen -i šurdeme gūsin baci dosi sain morin -i cooha isinjija bi, ehe morin -i cooha širan širan -i jimbi, goro bai cooha wacihiyame isinjire unde. <その時、満洲国の大城の周囲三十里以内の良い馬の兵は到着している。悪い馬の兵はだんだんに来ているところである。遠方の地の兵は全く到着していない。> [満洲実録：卷五：79]
 (17) tule emu niyalma duka hūlambi, weci, bi takarakū, eljitu si tucifi tuwana, je. <外で誰かが呼んでいます。誰だ？私は分かりません。エルジトゥよ、おまえ見てきなさい。はい。> [清文啓蒙：卷二：45b]

従来の研究は、大部分が(13)～(17)のような縮約形“-mbi”と非縮約形の“-me bi”を同じように記述している。本論文では、次章で、この両者に違いがあることを指摘する。

3. 非縮約形“-me bi-”

上で見たように、愛新覚羅瀛生(2004)の記述によれば、現在時における“-mbi”と“-me bi”の意味はほぼ同じものとなるが、河内・清瀬(2002: 73, 99-100)は、“-mbi”と“-me bi”に意味の違いがあると述べ、前者は「ある行動がまだ完了していないこと」を表し、後者は「ある行動が現在も引き続き行われている状態にあること」を意味すると述べる。しかし、この河内・清瀬(2002)の記述も両者の違いは明確でない。そこで、本論文では、これとは異なる文法化の観点から両者の違いに言及する。

3.1. “-me bi-”の出現環境

まず、縮約形“-mbi-”と非縮約形“-me bi-”は、後接する語尾によって、書き分けがあるように見える。すなわち、“-bi-”の後ろに“-ci”、“-fi”、“-hai”などの副動詞、“-ra”などの形動詞が来るときに縮約が起こった例は、管見の限り一例もない。

- (18) a. -me bici (?? -mbici)
 b. -me bifi (?? -mbifi)

- c. -me bisire (?? -mbisire)
 d. -me bisu (?? -mbisu)
 e. -me bikini (?? -mbikini)

(19)は“-ra”が後接した例、(20)は“-su”が後接した例、(21)は“-hai”が後接した例である。

- (19) tereci tsootsoo sirdan ambula gaibuha seme dolo ališame bisire(=??ališambisire) de siyun ioi dosifi hendume…(後略)〈その頃、曹操は「矢をたくさん奪われた」と内心悶えていると、荀攸が入ってきて言うには…(後略)〉[三譯總解:巻五:2a]
- (20) gucu si tataha boode genefi saikan tuwakiyame bisu.(=??tuwakiyambisu)〈友よ、おまえは宿に行つてちゃんと見張っていなさい。〉[清語老乞大:巻六:10a]
- (21) tereci joo yūn dergi yamun -i juleri tatafi umai baitakū ofi sunja tanggū coohai niyalmai emgi inenggidari hecen -i tule tucifi gabtame niyamniyame bihei(=??gabtame niyamniyambihei), emu aniya hamika. 〈その頃、趙雲は東衙門の前に泊まって、全く用がないので、五百人の兵士と一緒に毎日城外に出て歩射や騎射をしていながら、一年近くが過ぎました。〉[三譯總解:巻十:9b]

一方、“-me bime”は、今回、使用した(23)に示す文献では、全て“-mbime”で書かれており、“-me bime”と書かれた例は一例もない。

- (22) sun cuwan hendume tsootsoo -i daci gūnihangge lioi bu lio biyoo yuwan šu lio ioi jeo sitahūn niyalma be kai. (中略) bi juwan tumen geren cooha be kadalambime(=??kadalame bime) niyalmai fejile adarame bimbi. 〈孫権が言うには、曹操がもともと狙っているのは呂布、劉表、袁術、劉豫州と寡人であるぞ。(中略)私は十万余軍を治めていて、人の下にどうしていられようか?〉[三譯總解:巻三:18b]

以上、今回、使用した文献とそこに表れる“-me bi-”の用例数とその分布は(23)に示すとおりである⁽⁴⁾。

(23) “-me bi-”の出現環境

文献	主節			従属節					
	陳述	命令	希求	副動詞					形動詞
	bi	-su	-kini	-me	-fi	-hai	-ci	-tala	-ra
旧満洲档 ⁽⁵⁾	2	0	0	0	1	0	0	0	4
一百条	2	0	1	[3]	0	0	0	0	1
清文啓蒙	2	0	0	[7]	0	0	1	0	1
八歳児	5	0	0	0	0	0	0	0	0
清語老乞大	2	2	0	[2]	0	0	0	0	2
三譯総解	1	0	0	[4]	0	1	1	0	9
満洲実録	1	1	0	[2]	1	0	0	1	16

([]は縮約形“-mbime”の数)

(23)から分かるように、文献に確認される非縮約形の“-me bi-”の例は、ほとんどが(18)のような例である。このことは以下の2点の可能性を示唆する。一つ目は、“-me bi-”は既に文法化して“-mbi-”となっていたが、(18)のような特定の環境にある場合は、**縮約せずに書くという規則があった**という可能性である。縮約形と非縮約形の用いられる環境が相補分布しているものは、事実上、両者が同じ意味で使われていたと考えてよかろう。二つ目は、“-me bi-”は(18)のような特定の環境では文法化が完成しなかったが、“-me bi-”と“-mbi-”**双方が現れる環境においては文法化が完了した(しつづいた)**という可能性である。しかし、後者の場合、なぜ主節の陳述形と従属節の“-mbime”のみが文法化したのかという疑問が残る。筆者は前者の可能性が高いと考える。

3.2. “-me bi-”の意味

ほとんどの“-me bi-”の例が、上述したように、(18)の環境で現れる。しかし、(23)に示したように、非常に少数ではあるが、主節の位置に現れる陳述形の“-me bi-”の例も存在する。

- (24) ubaci hiya diyan udu babi. gūsin ba funceme bi. <ここから夏店は何里ありますか？三十里余っています。> [清語老乞大：巻 4:11b]
- (25) bi ubade morin hūwaitame bi. <私はここで馬をつないでいます。> [清文啓蒙：巻 2:38a]
- (26) jiyang g'an hendume si ainu niyalma akū boode emhun tuwakiyame bi. <蔣幹が言うには「あなたはなぜ人のいない家に独りで見張っているのですか？」> [三譯總解：巻七：9b]
- (27) amu suwaliyame yasa neifi tuwaci, ujui ninggude emu aldungga jaka ilihabi. dere šanyan hoošan -i adali. yasa ci senggi eyembi. beyei gubci šahūn. ujui funiyehe lekdehun. na de fekuceme bi. gaitai sabure jakade, bi ambula gūwacihiyalaha. ara. ere uthai hutu serengge inu dere. <眠気混じりに目を開けてみると、頭の上に一人の奇妙なものが立っています。顔が白い紙のようで、目から血が流れています。全身は蒼白で、髪を垂れ隠して地面に足踏みをしています。突然目の当たりにしたので、私はとても驚きました。ああ、これがおばけというものではあるまいか。> [一百条：巻四：28a]
- (28) cin -i boode niyalma jifi, den jilgan -i gisun gisurembi. we jihenī. ai uttu konggolo den. ainci tere usun

dakūla jihe aise seme genefi tuwaci, waka oci ai. toktokon i te nakū. jing amtanggai leoleme bi. jiheci angga majige mimihakū. uttu tuttu sehei, juwe erin -i buda jefi, gerhen mukiyetele teni genehe. <母屋に人が来て、大声で話しています。「誰が来たのかな？何をそんなにわめいているんだろう。もしかしてあの嫌な奴が来たのかも。」と行ってみたらその通り。どっかと座るや正に熱心に議論しています。来てから口を少しも閉じません。ああだこうだ言いながら二更の飯を食べて、黄昏前によく帰りました。> [一百条：巻四：17b]

(24)～(28)の例は、なぜ“-mbi”ではなく“-me bi”と書かれてあるのだろうか。このように主節の位置に現れる“-me bi-”の意味を分析するに、動詞“bi (ある、いる)”の語彙的意味を残した解釈が可能である。すなわち、(24)は「三十里余って(まだ三十里) ある」、(25)は「(私は) 馬をつないで(ここに) いる」、(26)は「あなたは一人で見張って(家に) いる」、(27)は「(奇妙なものが) 足踏みをして(その場に) いる」、(28)は「(嫌な奴が) 議論して(その場に) いる」という解釈である⁽⁶⁾。

このように、主節の位置における“-me bi”と“-mbi”の書き分けは、書き手の“-me bi”>“-mbi”の文法化に対する意識が反映されているのではないかと推測されるのである。つまり、“bi”の「ある・いる」という動詞の語彙的意味を残した状態で使う場合は“-me bi”、そうでなければ“-mbi”と書いたのではないかと考えられる。

4. おわりに

本論文では、満洲語にアスペクト範疇が存在するという仮定のもとに、未完成相（継続相）の“-me bi-”と“-mbi-”の違いについて論じた。満洲語の文献が現れる17世紀当時既に、完全に（或いは一部の環境において）「-me bi- > -mbi-」の縮約が起きていたと考えられるが、特に、副動詞や形動詞が後接する場合、即ち、従属節の位置に現れる場合は、非縮約形“-me bi”だけが用いられることを指摘した。このように“-me bi-”の出現位置が“-mbi”と相補分布している場合は、事実上、縮約形“-mbi-”と非縮約形“-me bi-”の違いがなかったことを意味する。

一方で、主節の位置、特に陳述の意味で用いる場合は、縮約形と非縮約形の両方が現れる。大部分は縮約形“-mbi”が用いられている。しかし、わずかではあるが、非縮約形“-me bi”も用いられている。この非縮約形の“-me bi-”は、全て“bi”の語彙的意味（「いる・ある」）が残った意味で解釈できる。つまり、語彙的意味を残していると解釈すれば“-me bi”を、語彙的意味を残していないと解釈すれば“-mbi”を使ったのではないかと考えられる。以上は、満洲語におけるアスペクト形式が文法化する過程を反映していると結論づけられよう。

以上、本論文では文法化の観点から両者の違いについて考察を試みたが、今後はタクシス (taxi) といった別の観点からの分析も可能であろう。本論文で触れることができなかった過去形の“-mbihe (-mbihebi)”と“-me bihe (-me bihebi)”の違いなどと併せて、今後の課題としたい。

注

- (1) 本論文の満洲文字のローマ字転写は Möllendorff (1892) に依拠する。
- (2) (4) の体系の妥当性は、肯定形と否定形の関係によって支持される。満洲語の肯定形と否定形はその一部が次頁の附録に示すような関係にあると考えられる。一方、(5) の体系の妥当性は、モンゴル語のアスペクト・テンス体系との類似性によって、類型論的に支持される (松岡 2008)。
- (3) (4) と (5) の中の [] は縮約形を、「?」は管見の限り文献に確認されない形式を表す。
- (4) (23) に示す文献の他に『小兒論』、『清書指南』なども見たが、“-me bi-” の例は確認できなかった。“-me bi-” の用例は非常に少ないと考えられる。
- (5) 『旧満洲档』の用例数は、神田・松村・岡田 (1972, 1975) のもののみ。
- (6) (24) はほぼ同じ状況で縮約形が用いられた例も確認される。
- (24') ubade gemun hecen de isinarangge udu babi. ubaci gemun hecen de isinarangge amba muru sunja tanggū ba **funcembi**. <ここから皇城まで何里ありますか? ここから皇城まで大体五百里余りです。> [清語老乞大: 卷一: 14a]

(24)、(24') は共に『清語老乞大』の例であるが、『清語老乞大』は朝鮮時代の満洲語教材という性格上、朝鮮語訳がついている。(24') は「여기서 皇城에 니르기 몇 리 잇노. 여기서 皇城에 니르기 대강 五百里 남으니」と翻訳しているのに対して、(24) は「여기서 夏店이 몇 리 잇노. 三十里 남아 있다」のように翻訳している。これは単に逐語訳をした可能性が高いと思うが、興味深い例である。

参照文献

- 爱新觉罗乌拉熙春 (1983) 『满语语法』, 呼和浩特: 内蒙古人民出版社
- 爱新觉罗瀛生 (2004) 『满语杂识』, 北京: 学苑出版社
- 关嘉禄・佟永功 (2002) 『简明满文语法』, 沈阳: 辽宁民族出版社
- 神田信夫・松村潤・岡田英弘 [訳注] (1972, 1975) 『東洋文庫叢刊十八 舊満洲檔 天聰九年』 1-2, 東洋文庫
- 河内良弘・清瀬義三郎則府 [編著] (2002) 『満洲語文語入門』, 京都: 京都大学学術出版会
- 李永海・刘景宪・屈六生 (1986) 『满语语法』, 北京: 民族出版社
- 松岡雄太 (2006) 「満洲語の“-ha bi-”と“-me bi-”」『満族史研究』 5: 28-54.
- 松岡雄太 (2008) 「モンゴル語のアスペクトに関する研究—満洲語・朝鮮語との対照研究—」, 九州大学博士論文 (未公刊)
- Möllendorff, P. G. von (1892) *Manchu Grammar with analysed texts*, Shanghai: American Presbyterian Mission Press.
- 田窪行則 (1986) 「満洲語の動詞について」『国文学 解釈と鑑賞』 51-1: 138-139.
- 山本謙吾 (1955) 「満洲語文語形態論」『世界言語概説』下巻, 市河三喜・服部四郎 (編): 489-536, 東京: 研究社

本研究の内容は「“満学: 历史与现状” 国际学术研讨会」(北京市社会科学院, 2010年8月)で行なった口頭発表に、一部加筆・修正を加えたものである。また、本研究の一部は、2009年度~2011年度文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)「モンゴル語のテンス・アスペクトについての通時的研究」(研究代表者 松岡雄太、課題番号 21720145)の支援を受けて行なわれたものである。

【附録】 “-me bi-” の肯定と否定

			肯定	否定
非 過 去	主 節	陳述 命令 希求	-me bi[-mbi] -me bimbi -me bisu -me biki -me bicina -me bikini	-rakū bi -me bisirakū ?-rakū bisu ?-rakū biki ?-rakū bicina ?-rakū bikini
		疑問	?-me bio [-mbio] ?-me bini [-mbini]	-rakū bio ?-rakū bini
	従 属 節	副動詞	-me bime [-mbime] -me bifi -me bihai -me bitele -me bici	-rakū bime ?-rakū bifi ?-rakū bihai ?-rakū bitele -rakū bici
		形動詞	-me bisire	-rakū bisire
過 去	主 節	陳述	-me bihe[-mbihe] -me bihebi[-mbihebi]	?-me bihekū -rakū bihe -rakū bihebi
		疑問	-me biheo [?-mbiheo]	-rakū biheo
	従 属 節	副動詞	(-ha bime) (-ha bifi) (-ha bihai) (-ha bitele) (-ha bici) -mbihe bici	(?-hakū bime) (?-hakū bifi) (?-hakū bihai) (?-hakū bitele) (-hakū bici) -rakū bihe bici
		形動詞	-me bihe	-rakū bihe

【註】

- 1) []は縮約形を表す。
- 2) ()は“-ha bi-”のパラダイムに入ると思われるものを表す。
- 3) 「?」は想定されうる形を表す。
- 4) 陳述形の後には kai、dere などをつけることができる。

